

## GNOMES



このくそ暑いのに、火事が多くて40度は遙かに超えているだろう車体の鉄板が真っ赤に焼けた消防車の狭い中にフル装備でひしめき合っている消防士の横顔を見ていると「こんな時に火事なんか出すんじゃないよ。」とつぶやいてしまう。そう思っていた午後、事務所の裏道に消防車がうようよと集まってきて騒いでいる。その少し前はヘリコプターがうるさいと思ったら、警察のバッチの付いた身分証を首から提げたのが走り回り、警官は盾を片手に防弾チョッキとヘルメットに身を固めて、逃走した銃撃グループを捜し回っているという。それはいいけど、そのど真ん中でまるつきり無防備でサンダル履いてのんきにママチャリで通ってゆく私の安全は

どーなるのだ。そういえば前に北千住の裏道でやっぱり警官が防弾チョッキを着て江戸時代じゃああるまいし刺股(さすまた)を持って包丁を持ってうろうろしているという男を捜し回っていた。吉原の裏道では黒スーツに黒めがね、外車のお兄さんたち100人程度のひしめく中をママチャリはサンダルおじさんを乗せて通り抜けて行く。みなさんもう少し穏やかに生活していただけないだろうか。こっちだってやっと検察庁長官狙撃事件の犯人が捕まって長かった容疑者としての疑いが晴れたのに、もう少し平和な毎日を送りたい。そういえば夜中に脇道から突然出てきた警官多数に包囲されて「おまえ、日本人じゃーないだろー。」といわれたときは近くの小菅刑務所から外人が10人ほど脱走した時だった。まあ、にぎやかなのはいいけれども何となく暗い方面に騒然としてきていて、こりゃあいつまでも東京にいたら危ないなーと最近しみじみ思います。目を上げて東京湾方面を見渡してみるとここ10年で高層ビルが林立して空でさえだんだん狭くなってきています。いろいろ考えなければいけないなー。どこか穏やかに暮らせて、日がかげつてくると、とたんに安飲み屋が元気よくたくさん現れるところをしらないだろうか。

さて今月は最後の週は山に行ってきます。一応「剣」を目指しますが、どうなることか行ってみなければわからない。夏が終わる頃には何人かでテントを担いで涸沢へ遊びに入ります。特別な目的はないのだが「で、そこに何かあるのですか。」と聞くアホが多い。何かがあるかはそこに行ってから自分で考えればいい「何もないじゃあないですか。」という人は来なくていい。空を見て、風に吹かれて、歩いて、一杯飲んで、笑って話せばそれで十分すぎるくらいいい。時として雨と風に吹かれてふるえながら飲むなんてのもありだ。せっかく持って生まれた人間の性能をきちんと使わなければつまらんだろうと言いたい。何かをすることが遊ぶと言うことであって、ただ待っていて、見せられたりやってもらったり決まったりおりに動いたりすることは、生き物としても遊ぶことと離れているように思えます。

8月の「まなざし」の編集は14日におこないます。電子出版での絵本の作り方をまとめた絵本を作りました。こんど絵本の作り方教室をやろうと思っています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195

高村 哲

GnomesJpn@aol.com